

# Section 47

## 傷や不要な被写体を 消去しよう

覚えておきたいキーワード

スポット修復ブラシツール

コンテンツに応じる

小さな傷やしみ、雰囲気を壊す電柱や看板など、写真に不要なものが写り込んでしまうことがあります。スポット修復ブラシツールを使えば簡単に消すことができます。

Before



写り込んでしまった通行人を消したい。

After



通行人の姿を消した写真にできた。

4

イメージ通りに補正しよう



1 スポット修復ブラシツールを選択して、



### KEYWORD

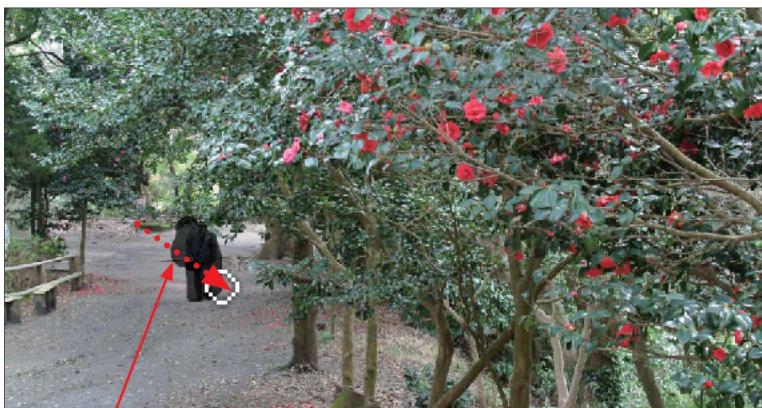
#### スポット修復ブラシツール

スポット修復ブラシツールは、写真から不要な部分を消すツールです。傷、しみ、しわなどの小さなものから、電柱、看板などの大きな物体まで、消したい部分をなぞるだけで自動的に消すことができます。ただし、消す対象が大きい場合や、背景がかなり複雑な場合は、適切に消すことができず、跡が残ってしまうことがあります。

2 <コンテンツに応…>を選択し、



3 塗りやすいようブラシサイズを調整します。



4 消したい部分をなぞるようにドラッグして、



5 マウスボタンから指を離すと、消去が実行されます。

## MEMO

### コンテンツに応じる

スポット修復ブラシツールのオプションバーでは、消し方を3種類から選ぶことができます。一般的には「コンテンツに応じる」を使います。

①<近似色に合わせる>

塗りつぶした範囲の周囲にあるピクセルの色を使います。

②<テクスチャを作成>

塗りつぶした範囲からテクスチャ(模様)を作成し、それを使って消去します。

③<コンテンツに応じる>

塗りつぶした対象や背景を自動的に認識して消去します。

## MEMO

### ブラシの太さを調整する

スポット修復ブラシツールでは、一筆書きのように一気に対象の部分を塗りつぶす必要があります。塗りやすいようにブラシの太さを調整しておきましょう。消す対象から多少はみ出しても構いません。ドラッグ部分はやや暗くなるのでそれで識別します。

## HINT

### 一度のドラッグで一気に指定する

ドラッグを終了すると、なぞられた範囲内からユーザーが消したいと思っている部分を自動識別して消去します。そのため、消したい部分全体がなぞられていないと、消去の対象を識別できません。なるべく一度のドラッグで、消したい部分全体を塗りつぶすようにします。

Section  
**48**

# 傾いてしまった写真 をまっすぐにしよう

覚えておきたいキーワード

ガイドモード

回転と角度補正

意図せず被写体が傾いた状態で撮影してしまうと、構図にしまりのない写真になってしまいます。写真が傾いているときは、**ガイドモード**の「回転と角度補正」を使って修正しましょう。

Before



写真が傾いてしまった。

After



まっすぐきれいな写真にできた。

4

イメージ通りに補正しよう

## 1 ガイドモードに切り替える



1 <ガイド>をクリックします。



### ガイドモード

ガイドモードは、操作を完全にマスターしていない人でも目的を達成できるよう、ガイドの指示に沿って操作する編集画面です。用意されているガイドは、「基本」「カラー」「白黒」「楽しい編集」「特殊編集」「Photomerge」の6つのカテゴリに分類されています。

**2 ガイドモードに切り替わります。**



**3 スクロールして、**



**4 <回転と角度補正>をクリックすると、**



**5 「回転と角度補正」のガイドが表示されます。**



## HINT

**マウスホバーで効果を確認**

サムネールにマウスをかざすと、補正前／補正後を確認することができます。



## KEYWORD

**回転と角度補正**

手ぶれなどにより傾いてしまった写真的角度補正是、ガイドモードの「回転と角度補正」に用意されているツールを使って修正できます。基準となる水平線を画像に引き、その線に合わせて画像が回転し、自動的に補正されます。また、横画像を縦画像にしたりなど、画像を90度回転させるときにも使用できます。

## 2 角度を補正し、保存する

1 <角度補正ツール>をクリックし、

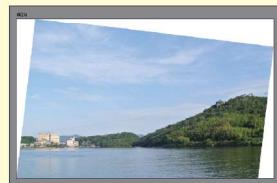


2 <エッジを自動的に塗りつぶし>をオンにします(MEMO参照)。



### エッジを自動的に塗りつぶし

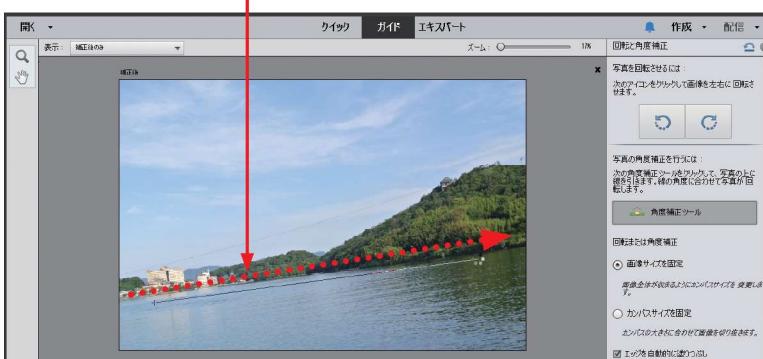
手順②で<エッジを自動的に塗りつぶし>をオンにして手順を進めると、本来は下図のように傾きを補正するため写真を回転したぶん、周囲にできるはずの余白が、元写真になじむように塗りつぶされます。このセクションで使用した写真のように元写真の四隅が空や地面などのあまり複雑ではない被写体の場合、より自然に余白が塗りつぶされます。



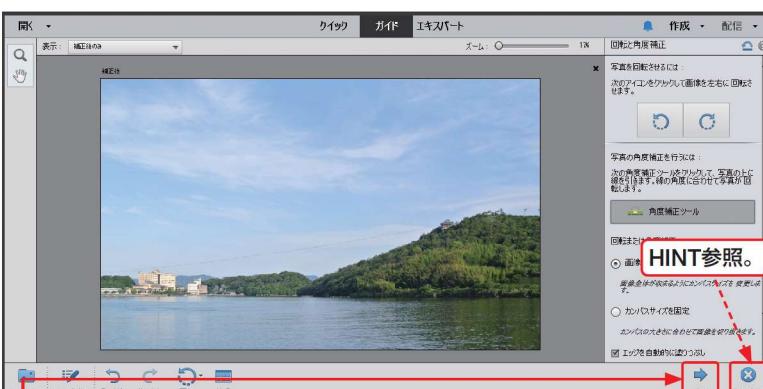
4

イメージ通りに補正しよう

3 水平の線となる基準をドラッグすると、



4 線を基準に写真の傾きが補正されます。



5 <次へ>をクリックします。



### 操作のキャンセル

ガイドモードでの操作を途中でやめたい場合は<キャンセル>をクリックします。画像が保存されることなく、P.147手順②の画面に戻ります。

6 <別名で保存>をクリックすると、



7 <名前を付けて保存>ダイアログボックスが表示されます。



8 保存先の指定や名前の入力などを行って、

9 <保存>をクリックします。

10 <完了>をクリックすると、



11 P.147手順2の画面に戻ります。



<クイック>や<エキスパート>をクリックして編集が続けられます。

## MEMO

### 続きを読むモードで編集する

左の画面で<クリック>あるいは<エキスパート>をクリックすると、それぞれのモードで引き続き編集を行うことができます。

## HINT

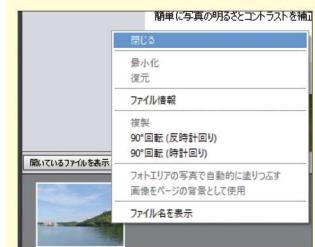
### エキスパートモードの利用

エキスパートモードの角度補正ツールアイコンでも、角度の補正を行うことができます。オプションバーを使用することで、角度を補正したときにできる余白の処理を選択することもできます。

## HINT

### 写真を閉じる

写真をそのまま閉じるには、手順11の画面で写真のサムネールを右クリックし、表示されるメニューから<閉じる>を選択します。



# Section 50

# 写真の幅を自然に縮めよう

覚えておきたいキーワード

再構築ツール

保護対象として設定

写真の幅を詰める場合、普通なら端を切り落とすか変形させて縮めるなどの無理な編集をすることになります。再構築ツールを使うと、自然な状態のまま幅を詰めることができます。

Before



被写体は変形させずに写真を小さくしたい。

After



目立たないように幅を詰めることができた。

4

イメージ通りに補正しよう

## 1 再構築ツールで保護したい部分を指定する

1 <エキスパート>をクリックして、



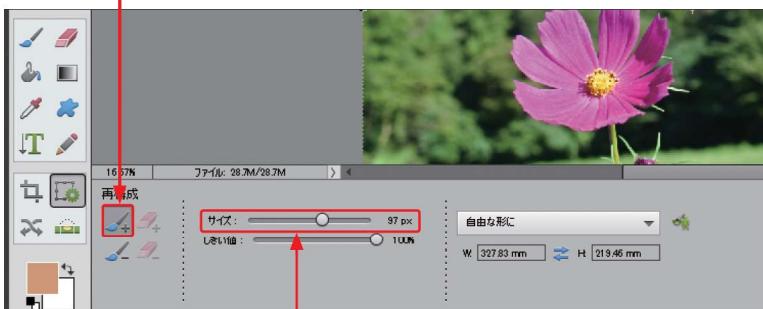
2 再構築ツールを選択し、



### 再構築ツール

再構築ツールでは、変形せたくない部分をドラッグして指定してから、写真全体のサイズを変更します。保護した部分は変形せずに位置だけがずらされるため、違和感の少ないサイズ変更することができます。

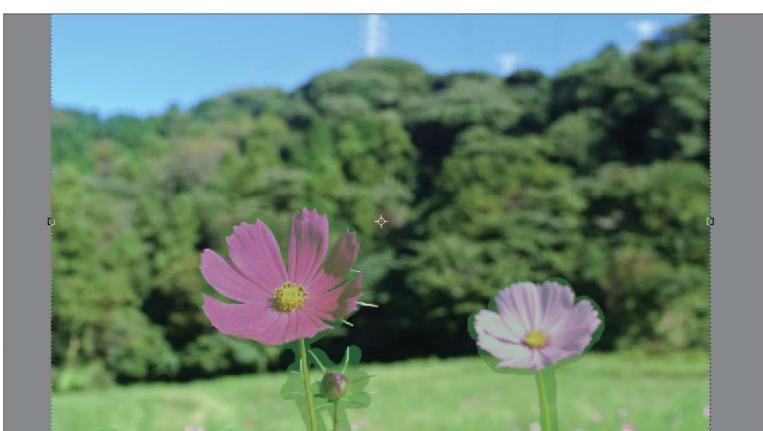
3 <保護対象として設定>をクリックし(MEMO参照)、



4 ブラシサイズを調整します。



5 保護したい部分をドラッグすると、緑色でハイライトされます。



6 ドラッグを繰り返して、保護したい部分すべてをハイライトさせます。

## MEMO

### 保護ブラシの利用

ツールオプションバーで<保護対象として設定>をクリックすると、保護ブラシに切り替わります。保護ブラシで写真上をなぞって緑色にハイライトさせると、その部分は変形しなくなります。

## HINT

### 緑のハイライトを消すには？

誤って保護したくない部分まで塗ってしまった場合は、<保護対象として設定されているハイライトを消去>をクリックしてから、消去したいハイライト上をなぞって消去します。

## HINT

### 変形してもいい部分を指定する

<削除対象として設定>をクリックすると削除ブラシに切り替わります。削除ブラシでなぞられた部分は赤くハイライトされ、その部分は大きく変形するようになります。場合によっては写真上から消えてしまうこともあります。



## 2 写真の幅を縮める

- 1 マウスカーソルを写真の端に合わせてハンドルをドラッグすると、



4

イメージ通りに補正しよう

- 2 保護したい部分はそのままに写真のサイズが変わります。



- 3 ここでクリックして確定します。

### MEMO

#### 写真のサイズを変更する

再構築ツール $\square$ の選択中に写真の周囲に表示されているハンドルをドラッグすると、写真のサイズを変更することができます。サイズを変更すると下に2つのボタンが表示されるので、再構築を実行したい場合は $\checkmark$ を、キャンセルしたい場合は $\times$ をクリックします。

### HINT

#### 人物の顔をすばやく保護するには？

再構築ツール $\square$ のオプションバーの「肌色をハイライトします」 $\square$ をクリックすると、写真の肌色の部分が保護された状態(緑色でハイライトされた状態)になります。ただし、服や髪などは保護されないため、そのまま変形すると意図通りの結果にならないことがあります。

### HINT

#### 透明な部分ができる

再構築ツール $\square$ で写真のサイズを変更すると、周囲に透明な領域ができます。その領域が不要なら、切り抜きツール $\square$ などを使って切り抜きます(Sec.46参照)。

